

## なぜこう訳されているのか（４）

—— 村上春樹を英語で読む（２－５） ——

### Haruki Murakami in English 2-5

塩 濱 久 雄

キーワード：英語、日本語、翻訳

#### 要 旨

昨年の『日本語頭』でわかること、『英語頭』でわかること」の続編である。

例えば、「私は東京へ行った」という日本語を英訳しようとすれば、和英辞典を用いて「私→I」「東京→Tokyo」、「行く→go」と単語を変換し、それらの英単語を英文法のルールに従って並べ替えば、I went to Tokyo という英文が出来上がる。

しかし、村上春樹の原文とその英訳を比較すると、そのような単純な作業で出来上がっている英文とは異なるレベルの英訳になっていることがある。

以下、大きな変化が見られる変更を挙げる。

1. 原文が「人が絡まない表現」になっているが、その英訳において「人が絡む表現」になっている場合がある。例<sup>(1)</sup>でいうと、「外に漏れないように」が so no one outside could hear となっているような場合である。

(1) 会合は内密なものであり、外に漏れないように抑制された小さな声で会話はなされた。

The meeting was secret, and they spoke in hushed tones so no one outside could hear.

(コメント)

「外に漏れないように」が so no one outside could hear（外の誰にも聞こえないように）と訳されている。

(2) 結局、最後まで拳銃は火を吹かないかもしれない。

I might end up never firing the pistol.

(コメント)

英文を和訳すると、「私は結局拳銃を発射しないままで終わるかもしれない」となる。

(3) 牛河の縛りあげられた丸い体躯が、地上に放り出された巨大な魚のように畳の上で激しくのたうつのを、タマルは目の隅で見ていた。身体が後ろに反る形に縛っていたから、どれ

だけ暴れても音が隣室に届く心配はない。

Tamaru watched as Ushikawa, his body tightly bound into a ball, writhed on the tatami like some huge fish out of water. Ushikawa's arms and legs were tied behind him, so no matter how much he struggled, the neighbors next door wouldn't hear a thing.

(コメント)

「音が隣室に届く心配はない」が the neighbors next door wouldn't hear a thing と訳されている。

- (4) 「ほかにいくつかあんたに尋ねたいことがある」

“I still have a few questions I want to ask you.”

(コメント)

「ほかにいくつかある」が I still have a few と訳されている。

- (5) すべての臓器が縮み上がり、痛みが一段落するまでまともに息ができなかった。やがて牛河の口から乾いたあえぎが漏れた。

All his internal organs clenched, and until the pain had subsided a little he couldn't breathe. Finally he was able to get out a dry wheeze.

(コメント)

「牛河の口から乾いたあえぎが漏れた」が he was able to get out a dry wheeze と訳されている。

- (6) 緊張が全身にみなぎっていた。写真週刊誌の追跡を恐れる女優のように。

You could tell how tense her whole body was, like an actress being stalked by paparazzi.

(コメント)

「緊張が全身にみなぎっていた」が You could tell how tense her whole body was と訳され、原文にない You could tell how が追加されている。

- (7) 階段を降りて食堂に行くと、そこには安達クミがいた。

They took the stairs down to the cafeteria and found Kumi Adachi waiting for them.

(コメント)

「安達クミがいた」が found Kumi Adachi と訳されている。これも「人が絡む」に含める。

- (8) 好むと好まざるとにかかわらず、そこには優先順位というものが生じる。

Like it or not, you end up prioritizing.

(コメント)

「優先順位というものが生じる」が you end up prioritizing (君は結局優先順位をつけることになる) と訳されている。

(9) 相手は抜かりのない危険な男だ。

I'm dealing with someone who is totally dangerous.

(コメント)

英文を和訳すると、「私はとても危険な誰かを相手にしている」となる。

(10) むしろ心地良い寒さだ。

She actually found the cold pleasant.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼女は実際その寒さを心地よく思った」となる。

(11) 彼の視線もやはりそこに二つの月の姿を捉えているのだろう。

He must be seeing the two moons as well.

(コメント)

原文の主語は「視線」であるが、英訳の主語は He である。

(12) 彼女の歩調は滑らかで迷いがなかった。

She walked with a smooth, unhesitant stride.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼女は滑らかな、迷いのない足取りで歩いていた」となる。

(13) 両腕の皮膚が粟立つ感覚があった。

Ushikawa felt the flesh crawl on both his arms.

(コメント)

原文の主語は「感覚」であるが、英訳の主語は Ushikawa である。

(14) そういう気配があった。

He could sense it.

(コメント)

原文の主語は「気配」であるが、英訳の主語は He である。

(15) そこで小松の話は終わったようだった。

Komatsu seemed to be finished with his story.

(コメント)

原文の主語は「話」であるが、英訳の主語は Komatsu である。

- (16) 肝心の話はもう終わっていた。用件は伝えられ合意が成立した。

We had already discussed what was important. They had told me what they wanted to say and we had come to an agreement.

(コメント)

「肝心の話はもう終わっていた」が We had already discussed what was important と訳されている。「用件は伝えられ」が They had told me what they wanted to say と訳されている。「合意が成立した」が we had come to an agreement と訳されている。

- (17) となるとあなたがたは「さきがけ」の関係者で、ここは教団の敷地内だということになるのかもしれない。

“That would mean you two are probably from Sakigake,” he continued, “and we are in your compound.”

(コメント)

「ここは教団の敷地内」が we are in your compound と訳されている。

- (18) こちらの物音もたぶんどこにも届かないだろう。

I doubt anyone could hear any sound from me.

(コメント)

英文を和訳すると、「誰かが私の発する音を聞くことはないと思う」となる。

- (19) もちろん青豆は自分が老婦人によって厚く護られていることを知っている。それでも不安は青豆の心を去らない。

Aomame of course knows how closely the dowager protects her, but even so, she can't shake a sense of unease.

(コメント)

「不安は青豆の心を去らない」が she can't shake a sense of unease と訳されている。

- (20) 一時期はそれでけっこううまくいくようにも見えた。しかしもう手元には一枚のカードもない。

For a time things looked like they were going to work out, but now he had run out of cards.

(コメント)

「しかしもう手元には一枚のカードもない」が but now he had run out of cards と訳されている。

- (21) 望遠レンズはカモフラージュされているし、タオルでくるんで消音したシャッター音はそこまでは届かない。

The telephoto lens is camouflaged, the sound of the shutter dampened by the towel wrapped around

it, so there's no way she could hear it from where she is.

(コメント)

「そこまでは届かない」が there's no way she could hear it from where she is と訳されている。

- (22) そんな微妙な作業を他人に要求することは不可能だ。

He couldn't ask someone else to handle such a delicate undertaking.

(コメント)

原文の主語は「他人に要求すること」であるが、英訳の主語は He である。

- (23) 部屋の中はしんとして、びっくりするほどきれいになっていた。(240)

Inside, the apartment was dead silent. He was immediately struck by how neat and clean everything was.

(コメント)

「びっくりするほどきれいになっていた」が He was immediately struck by how neat and clean everything was (すぐに、すべてがきちんときれいになっているのにうたれた) と人を主語にして訳されている。

- (24) 部屋の気圧がわずかに変化したような気配があった。

He felt a change in the air pressure in the room.

(コメント)

原文の主語は「気配」であるが、英訳の主語は He である。

- (25) いくら考えても結論は出ない。

I can't reach a conclusion no matter how hard I think about it.

(コメント)

「結論は出ない」が I can't reach a conclusion と I を主語にして訳されている。

- (26) 明らかになった状況は、牛河が仮説として予測していたものに近かった。

What he had verified was very close to his hypothesis.

(コメント)

「明らかになった」が he had verified と訳されている。

- (27) いつ作られたのかは見当もつかないが、いずれにせよそれが作られたときから既に流行遅れだったのではないかとおぼしきウールのスーツには、防虫剤の匂いが微かに漂っていた。  
She had on a wool suit of indeterminate age, though no doubt it was already out of fashion by the time it was manufactured, and it carried with it a faint odor of mothballs.

(コメント)

英訳は *She had on* (彼女は着ていた) で始まっている。

- (28) 話の筋はいちおう通るのだが、もうひとつ説得力がない。

*On one level it all made sense, but he wasn't convinced.*

(コメント)

「説得力がない」が *he wasn't convinced* と訳されている。

- (29) 「酔っているようには見えないけど」

「表に出ないの。そういう体質なんだ。でもなかなか酔ってると思う」

*"You don't look drunk."*

*"I don't show it on the outside. That's just the way I am. But I'm wasted."*

(コメント)

「表に出ないの」が *I don't show it on the outside* と *I* を主語にして訳されている。

- (30) 彼女のバッグに詰まっている現金で、贅沢さえしなければ十年くらいは暮らせるだろう。

*With the money she had stuffed in her bag she should be able to live for ten years there, if she watched her expenses.*

(コメント)

「詰まっている」が *she had stuffed* と *she* を主語にして訳されている。

- (31) 「どちらの場合も、青豆という名前のからんだ情報をとればいいんですね」とコウモリはかすれた声で言った。咳払いがあった。

*"In both cases, then, you're after information concerning the name Aomame, right?" Bat said huskily, and cleared his throat.*

(コメント)

「咳払いがあった」が *cleared his throat* と訳されている。

- (32) そしてこの次には、私の伸ばした手は実際に彼に届くかもしれない。

*Maybe if I hold out my hand the next time, I really will be able to reach him.*

(コメント)

「手は実際に彼に届くかもしれない」が *I really will be able to reach him* と *I* を主語にして訳されている。

- (33) リーダー殺害に麻布の老婦人が関与しているという具体的な証拠はない。

*He had no proof that the old dowager from Azabu was mixed up in Leader's murder.*

(コメント)

「証拠はない」が He had no proof と He を主語にして訳されている。

- (34) 「ええ、女性たちは安全に保護されなくてはなりませんし、また多くの篤志家も匿名に留まることを望まれています。なんといっても暴力行為の絡んでいることですから」

“Correct. We have to make sure that the women are protected, plus many of our donors prefer to remain anonymous. I mean, we’re dealing with acts of violence, after all.”

(コメント)

「暴力行為の絡んでいること」が we’re dealing with acts of violence と we を主語にして訳されている。

- (35) 毎日が同じことの繰り返しだ。それでも天吾は意識のない男に向かって、自分の行動をかなり細かいところまで日々報告した。

He repeated the same things every day, but even so, Tengo gave the unconscious man a detailed report on all his activities.

(コメント)

「毎日が同じことの繰り返しだ」が He repeated the same things every day と He を主語にして訳されている。

- (36) そうなれば俺の立場は微妙なものになる。

If that happens, I could be put in a difficult position.

(コメント)

「立場は微妙なものになる」が I could be put in a difficult position と I を主語にして訳されている。

- (37) それで、非常用階段はありましたか？

So, did you find an emergency stairway?

(コメント)

英文を和訳すると、「それで非常用階段を見つけました？」と you を主語にして訳されている。

- (38) 人手と金がふんだんにかけられています。

She had to have a lot of help and a generous amount of funding.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼女は多くの援助と多額の資金を持っているに違いない」となり、you を主語にして訳されている。

- (39) 以前はそんなものはなかった。

He had never noticed it before.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼は今までそれに気が付かなかった」となり、He を主語にして訳されている。

- (40) あたりの空気にはどことなくあぶなっかしい気配が漂っていた。

He sensed some kind of danger in the air,

(コメント)

英文を和訳すると、「彼は空気の中にある種の危険を感じた」となり、He を主語にして訳されている。

- (41) 催眠術のようなものなのだろう。

He must have employed something like hypnotism.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼は催眠術のようなものを採用したに違いない」となり、He を主語にして訳されている。

- (42) 網膜に問題がある。

I have a problem with my retinas.

(コメント)

英文を和訳すると、「私は網膜に問題を抱えている」となり、I を主語にして訳されている。

- (43) その隣にはブルーのジムバッグがあった。

Next to them she had placed a blue gym bag.

(コメント)

英文を和訳すると、「その隣に彼女はブルーのジムバッグを置いた」となり、she を主語にして訳されている。

- (44) 午後の七時までにはまだずいぶん時間があつた。青豆にはそれまで何もすることがなかった。スポーツクラブの仕事は入っていなかった。

She still had a lot of time until seven o'clock in the evening but nothing to do in the meantime, no work at the sports club.

(コメント)

「午後の七時までにはまだずいぶん時間があつた」が She still had a lot of time until seven o'clock in the evening と she を主語にして訳されている。



- (45) 彼の身体には何らかの問題があります。

He has some kind of physical problems.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼は何らかの肉体的問題を抱えている」となり、He を主語にして訳されている。

- (46) それで月は何個あった、と青豆はもう少しで問いただしそうになった。しかし思いとどまった。

Aomame was on the verge of asking him how many moons he had seen in that clear sky, but she stopped herself.

(コメント)

「何個あった」が how many moons he had seen (彼が幾つの月を見たか) と訳されている。

- (47) 「結果がわかったら教えてね」

“Tell me what you find out,”

(コメント)

英文を和訳すると「あなたがわかったことを教えてね」となり、you を主語として訳されている。

- (48) 大きな分厚い手のひらだった。ところどころに傷がついている。それは身体の一部というよりは、巨大な重機の部品のように見えた。

He had big, fleshy palms marked with scars. His hands looked more like parts of a giant machine than of a human body.

(コメント)

「大きな分厚い手のひらだった。ところどころに傷がついている」が He had big, fleshy palms marked with scars と He を主語として訳されている。

- (49) 変わった先生で、小説の筋とは関係のない余談ばかりしていた。

We had an odd professor. He'd never talk about the story itself but go off on all sorts of tangents.

(コメント)

「変わった先生で」が We had an odd professor と We を主語として訳されている。

- (50) 初めのうちは苦労があったようだが、やがて有機農法を用いた食材が都市部で静かなブームになり、野菜の通信販売がビジネスとして成立するようになった。

They experienced many hardships at first, but they eventually succeeded in the mail order sale of vegetables when the use of organically grown produce began a quiet boom in the cities.

(コメント)

「初めのうちは苦労があった」が They experienced many hardships at first と They を主語として訳されている。

- (51) 今回それはたまたま小説というかたちをとったけれど、次にどんなかたちをとるのか、それはわからない。

It just so happens that the form I employed this time was fiction, but I can't say what form I will use next time.

(コメント)

「それはたまたま小説というかたちをとった」が It just so happens that the form I employed this time was fiction と訳されている。また、「次にどんなかたちをとるのか」が what form I will use next time とともに I を主語にして訳されている。

- (52) 髪はまっすぐで長い。

She had long, straight hair.

(コメント)

英文を和訳すると「彼女は長い、まっすぐな髪を持っていた」となり、She を主語として訳されている。

- (53) 「具体的に言えば、まず警護が厳しいのです」

“By which I mean, first of all, that he has extremely tight security.”

(コメント)

「警護が厳しい」が he has extremely tight security と he を主語として訳されている。

- (54) 道具を用意して指定された場所に足を運ぶ。状況は前もって念入りに設定されている。

She would prepare her equipment, make her way to the designated place, and find the situation arranged exactly as planned.

(コメント)

「状況は前もって念入りに設定されている」が (She would) find the situation arranged exactly as planned と She を主語として訳されている。

- (55) そこには見慣れた光景があり、長く忘れていた匂いがあった。優しい懐かしさがあり、厳しい痛みがあった。

She found there familiar sights and long-forgotten smells, gentle nostalgia and severe pain.

(コメント)

英文を和訳すると「彼女はそこに見慣れた光景や長く忘れていた匂いを見つけた」となり、She

を主語として訳されている。

- (56) 青豆は一年近く経ってから用件を作ってその男の家を訪れた。

Aomame allowed nearly a year to pass before concocting an excuse to visit the man's house.

(コメント)

「一年近く経って」が allowed nearly a year to pass と訳されている。

- (57) 警官の制服と制式拳銃が一新されていた。

Police officers were issued new uniforms and new pistols.

(コメント)

英文を和訳すると、「警官は新しい制服と新しい拳銃を支給されていた」となる。

- (58) 「シナノマチにへやがある」

"I have a room in Shinano-machi."

(コメント)

英文を和訳すると、「私は信濃町に部屋を持っている」となる。

- (59) なんとか事態の進行に追いついていく必要がある。

He felt a need to trace the progress of the current situation.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼は現在の事態の進行について行く必要性を感じていた」となる。

- (60) 確かにそのとおりかもしれない。

They were probably right.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼らはたぶん正しかった」となる。

- (61) 静かなバーの中で彼女の声は必要以上に大きく響いたからだ。ありがたいことに彼女が口にしたことは、誰の耳にも届かなかったようだった。

She had spoken too loudly in the quiet bar, but fortunately no one seemed to have heard what she said.

(コメント)

「誰の耳にも届かなかった」が no one seemed to have heard と訳されている。

- (62) そのかわりあんまりいいテーブルじゃないかもしれないけど。

I can't guarantee we'd get great seats, of course.

(コメント)

英文を和訳すると、「もちろんいい席が手に入るとは保証出来ない」となる。

(63) でもそれは嘘だった。

But they were lying.

(コメント)

英文を和訳すると、「でも彼らは嘘をついていた」となる。

(64) 環の家庭は裕福で社会的地位もあったが、両親の仲がきわめて悪かったせいで、家の中は荒廃していた。

Tamaki came from a wealthy household of some social standing, but her parents' terrible relationship had turned the home into a wasteland.

(コメント)

「環の家庭は裕福で社会的地位もあった」が Tamaki came from a wealthy household of some social standing (環は裕福で社会的地位もある家庭の出身であった) と訳されている。

(65) ほかに代わりはない。

Nor could anyone take her place.

(コメント)

英文を和訳すると、「誰も彼女の代わりはできない」となる。

(66) しかし今日に限ってはなぜかこめかみが鈍く痙き、意識にうっすらと霞がかかっている。

But today was different. She felt a dull throbbing in her temples and she saw everything through a thin haze.

(コメント)

「意識にうっすらと霞がかかっている」が she saw everything through a thin haze と訳されている。

(67) そこには何かを求めるような、何かを訴えるような、不思議な光が宿っていた。

In her eyes, he saw a strange light, a kind of appeal or plea directed at him.

(コメント)

「不思議な光が宿っていた」が he saw a strange light と訳されている。

(68) いったん言葉が途切れると、沈黙はまるで決められた運命のように、その部屋に重く腰を据えた。

When the Professor stopped speaking, a heavy silence settled over the room like a finalized destiny.

(コメント)

「いったん言葉が途切れると」が When the Professor stopped speaking と訳されている。

- (69) そこに立ちはだかった壁は私の歯が立たぬほど厚く堅固なものだった。

I always come up against a thick, solid wall standing in my way.

(コメント)

英文を和訳すると、「私はいつも分厚く、固い壁が立ちはだかっているのに出会う」となる。

- (70) あるいは二人のあいだだけでは会話のようなものが成立していたのかもしれない。しかし私はとくに詮索はしなかったし、好きにさせておいた。

Maybe they found a way to converse when they were alone together. I just let them do as they pleased, without intruding.

(コメント)

「二人のあいだだけでは会話のようなものが成立していた」が they found a way to converse when they were alone together と訳されている。

- (71) 利益もそれなりにあがっていたはずだ。しかしそれと並行して、農業以外の何かがそこで進行しているようだった。

Their profits must have been rising all the while, but in parallel with that, they have apparently also been making steady progress in something other than farming.

(コメント)

「農業以外の何かがそこで進行しているようだった」が they have apparently also been making steady progress in something other than farming と訳されている。

- (72) 「もちろんそれは可能です」と青豆は言った。「個人出張トレーニングとして、ジムのフロントをいちおう通していただくことになりますが」

“Of course I can do that,” Aomame said, “but I’ll have to ask you to arrange for the personal training away from the gym through the club’s front desk.”

(コメント)

「それは可能です」が I can do that と訳されている。

- (73) ちょっとくたびれかけて、できれば少し髪が薄くなっているくらいの中年男が彼女の好みだ。それでいて下品なところがなく、清潔なのがいい。それに頭のかたちだって良くては。しかしそういう男は簡単には見つからない。だからどうしても妥協というスペースが必要になる。

She liked those slightly tired middle-aged men, preferably in the early stages of baldness. They

should be clean and free of any hint of vulgarity. And they had to have well-shaped heads. Such men were not easy to find, which meant that she had to be willing to compromise.

(コメント)

「それに頭のかたちだって良くなくては」が And they had to have well-shaped heads と訳されている。

- (74) 待ち合わせをしているふりをし、ときどき腕時計に目をやったが、実際に誰かがやってくるあてはない。

She would glance at her wristwatch every now and then, pretending that she was here to meet someone, but in fact she had made no such arrangement.

(コメント)

「実際に誰かがやってくるあてはない」が in fact she had made no such arrangement と訳されている。

- (75) 多くの女性会員はその訓練をことのほか楽しんだし、技術も目に見えて向上したのだが、中にはその光景を見て眉をひそめる人々もいて(その多くはもちろん男性会員だった)、「あれはいくらなんでもやりすぎじゃないか」という苦情がクラブの上の方に持ち込まれた。Many of them took special pleasure in this training, and their skill improved markedly, but other members (mostly men, of course) viewed the spectacle with a frown and complained to the club's management that she was going overboard.

(コメント)

「あれはいくらなんでもやりすぎじゃないか」が she was going overboard と訳されている。

- (76) しかしなぜかその詳細を思い出すことができない。物事の前後が入り乱れている。

I can't remember the details, though, for some reason, and I'm confused about the sequence of events.

(コメント)

「物事の前後が入り乱れている」が I'm confused about the sequence of events と訳されている。

- (77) 頬は削げ、顎の骨が角形にはっている。

He had sunken cheeks and a square jaw.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼はへこんだ頬と四角い顎を持っている」となる。

- (78) それは身体のねじれのような感覚だった。身体の組成が、雑巾みたいに絞り上げられていく感触がそこにはあった。

She had experienced it as a kind of physical wrenching, as if the components of her body were being wrung out like a rag.

(コメント)

「それは身体のねじれのような感覚だった」が She had experienced it as a kind of physical wrenching と訳されている。

- (79) 青豆の探していた事件は、夕張炭坑の事故の余波がまだ続いている十月十九日に起こっていた。

The aftermath of the Yubari coal mine accident was still being reported in the paper when Aomame found the event that she was looking for.

(コメント)

「青豆の探していた事件は」が when Aomame found the event that she was looking for と訳されている。

- (80) たぶん一命をとりとめたのだろう。

He had probably survived.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼はたぶん生き延びたのだろう」となる。

- (81) 「警官の制服と拳銃が新しくなったのは何年前のことだっけ？」

“How many years ago did the police get new uniforms and guns?”

(コメント)

英文を和訳すると、「警官はいつ新しい制服と銃を手に入れたのか」となる。

- (82) 青豆は黙って話しの続きを待ったが、続きはなかった。(153)

Aomame waited for the dowager to continue, but she did not.

(コメント)

「話しの続きを待った」が waited for the dowager to continue (女主人が話を続けるのを待つ) と訳されている。また、「続きはなかった」が she did not と訳されている。

- (83) 何か思い当るところがあったようだ。

She seemed to have found some answers.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼女は何かの答えを手に入れたようだった」となる。

- (84) 「ない」と彼女ははっきり言った。そのあとに躊躇のようなものがあった。「いじめたことならあるけど」

“Never,” she declared, but then she seemed to hesitate. “I did do some bullying, though.”

(コメント)

「躊躇のようなものがあった」が she seemed to hesitate と訳されている。

- (85) しかしふかえりがこの『空気さなぎ』の中で描こうとしている（あるいは記録しようとしている）世界のあり方を、自分がおおむね正確に把握しつつあるという手応えが、あるいは手応えに近いものが、天吾の中に生まれた。

Still, Tengo had begun to have a fairly strong sense that his grasp of the world that Fuka-Eri was trying to depict (or record) in Air Chrysalis was generally accurate.

(コメント)

「天吾の中に生まれた」が Tengo had begun to have と訳されている。

- (86) ものごとは前進している。

He was making headway.

(コメント)

英文を和訳すると「彼は前進していた」と訳されている。

- (87) 決まった設計図のようなものはない。その場その場で、直観と経験を駆使して工夫していくしかない。

I don't have a blueprint, so all I can do is use my intuition and experience to work on each separate problem that comes up.

(コメント)

「決まった設計図のようなものはない」が I don't have a blueprint と訳されている。人が絡む。「決まった」が訳出されていない。「その場その場で」が on each separate problem that comes up (起こってくるそれぞれの問題に関して) と訳されている。

- (88) しかしものごとは既に動き始めている。そして時間は限られている。

But events had already started moving, and he had a limited amount of time.

(コメント)

「時間は限られている」が he had a limited amount of time と訳されている。

- (89) こいつは時間との競争なんだよ。

We're in a race against time.



(コメント)

英文を和訳すると「我々は時間との競争の中に居る」と訳されている。

- 90) 予備校に行けばありますし、仕事ではしょっちゅう使っています。

We have them at school. I use them all the time for work.

(コメント)

「予備校に行けばあります」が We have them at school と訳されている。

- 91) あたりはまだ暗い。そして彼はまだ長い橋の真ん中あたりにいた。

He was still in pitch darkness, halfway across the long bridge.

(コメント)

「あたりはまだ暗い」が He was still in pitch darkness と訳されている。

- 92) たしかに話はおそろしく退屈だし、とてもいらいらさせられる。しかしそれは死に値するほどの罪悪ではないはずだ。おそらく。

True, he was tremendously boring, which really got on her nerves, but that was not a crime deserving death. Probably.

(コメント)

「話はおそろしく退屈だ」が he was tremendously boring と訳されている。

- 93) 出入り口はやはりひとつしかない。鍵のかかったフェンスの扉だけだ。

Yes, she had already found the only exit, the locked gate.

(コメント)

「出入り口はやはりひとつしかない」が she had already found the only exit と訳されている。

- 94) 高い扉で、てっぺんには有刺鉄線までめぐらされている。

The gate towered over her and was topped with barbed wire.

(コメント)

「高い扉で」が The gate towered over her と訳されている。

- 95) 眼下には国道二四六号線が走っていた。

She had a sweeping view of National Highway 246 running below.

(コメント)

英文を和訳すると「彼女は国道二四六号線を見渡していた」と訳されている。

- (96) 「これじゃ間に合わないな」

“You’ll never make it.”

（コメント）

英文を和訳すると、「君は間に合わない」となる。

- (97) タクシーのラジオは、FM 放送のクラシック音楽番組を流していた。

The taxi’s radio was tuned to a classical FM broadcast.

（コメント）

英文を和訳すると、「タクシーのラジオは、FM 放送のクラシック音楽番組に合わされていた」となり、「誰かが音楽番組に合わせた」ことが言語化されている。。

- (98) 反対行きの車線を大型トラックが通り過ぎるたびに、高いヒールの下で路面がゆらゆらと揺れた。

Each time a large truck roared by on the opposite side, she felt the surface of the road shake, —or rather, undulate— through her high heels.

（コメント）

「高いヒールの下で路面がゆらゆらと揺れた」が she felt the surface of the road shake, —or rather, undulate— through her high heels と she を主語で訳されている。

（比較例）

重いトラックが前の道路を通ると、窓ガラスがかたかたと震えた。

Whenever a large truck rolled by outside, the windows rattled.

（コメント）

「窓ガラスがかたかたと震えた」は人が絡む表現になっていない。

（比較例２）

青豆は黙って耳を澄ませていた。老婦人が沈黙すると、ガラス戸の向こうからくつきりとした鳥のさえずりが聞こえた。

Aomame listened attentively without comment. When the dowager fell silent, the chirping of a bird came clearly through the windowpane.

- (99) 実にきれいにワックスがかけられている。そばに寄ったら車体に顔が映りそうなくらいだ。

The body was so immaculately polished, you could probably see your face in it.

（コメント）

「そばに寄ったら車体に顔が映りそうなくらいだ」が you could probably see your face in it と訳されている。

(100) 結論が出るまでに時間はかからなかった。

She needed hardly any time to reach a conclusion.

(コメント)

英文を和訳すると、「彼女は結論に達するのにほとんど時間を必要としなかった」と訳されている。

(101) おかげで、彼女の顔が人々に鮮やかな印象を与えることはまずなかった。

Thanks to these features, no one ever had a vivid impression of her face.

(コメント)

「人々に鮮やかな印象を与えることはまずなかった」が no one ever had a vivid impression of her face と訳されている。

(102) 「これはここだけの話にさせていただきますか」と女教師は言った。

“Could you keep this between just the two of us?” the teacher asked.

(コメント)

「ここだけの話にして」が keep this between just the two of us と訳されている。

(103) そしてまた別れた奥さんだって、月々の手当が滞れば文句のひとつも言いたくなるでしょう。

And I'm sure that if you fall behind in your alimony payments, your wife will have something to say about it.

(コメント)

「月々の手当が滞れば」が if you fall behind in your alimony payments (あなたが養育費の支払いに遅れたら) と訳されている。

(104) 問題がふたつあります。

I see two problems here.

(コメント)

英文を和訳すると、「ここに問題がふたつ見える」となる。

(105) 天吾はコーヒーカップを手に取り、その中にあるものを一口飲んだ。何の味もしない。ただなま温かい液体が喉を通りすぎていくだけだ。

Tengo picked up his coffee cup and gulped down what was left. He tasted nothing, just felt some lukewarm liquid passing down his throat.

(コメント)

「何の味もしない」が He tasted nothing と訳されている。

- (106) 「しかし緊急事態でもないのに、その階段を勝手に使ったりすると、問題になるんじゃないかしら？」

“But wouldn’t I get in trouble using it without permission when there’s no real emergency?”

(コメント)

「問題になるんじゃないかしら」が wouldn’t I get in trouble と訳されている。

- (107) 真夜中に起こったことですから、苦痛の悲鳴を上げていればアパート中に聞こえたはずで  
す。

It happened in the middle of the night, and if he had yelled out in pain, everyone in the building  
would have heard him.

(コメント)

「苦痛の悲鳴を上げていればアパート中に聞こえたはずです」が everyone in the building would  
have heard him と訳されている。

- (108) 「こんな遠方まで足を運ばせてしまって申し訳ありませんでした」、その男のしゃべり方  
には独特のめりはりがあった。不特定多数の前で話をするを長く習慣としてきた人の  
しゃべり方だ。それもおそらくは論理だった話を。

“I’m sorry I made you come all this way,” the man said. He spoke with an unusually clear  
intonation, like someone long accustomed to public speaking—and probably about logical topics.

(コメント)

「その男のしゃべり方には独特のめりはりがあった」が He spoke with an unusually clear  
intonation と訳され、「人が～した」の形で英訳されている。

- (109) 世界が暗く閉ざされていく感覚があるものの、意識が薄れるわけではない。

And though it felt to him as if the world were being closed off in darkness, he experienced no loss of  
awareness.

(コメント)

「意識が薄れるわけではない」が he experienced no loss of awareness と訳されている。

## 2. 原文にある表現が、英訳において訳出されていない場合がある。

### 以下そのような例を列挙する

「かえるくん、東京を救う」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (1) でも片桐がそんな風に汗ひとつかかず平然としていると、取り囲んだやくざたちのほうが

むしろ居心地悪くなるようだった。おかげで片桐はその世界では、肝の据わった男としていささか名前を知られるようになった。

It was not Katagiri but the thugs surrounding him who got nervous when they saw him so calm and cool. He soon earned a kind of reputation in their world as a tough guy.

(コメント)

「おかげで」が訳出されていない。

「かえるくん、東京を救う」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (2) かえるくんは向かいの席から、その一連の動作を興味深げに見守っていた。

Seated opposite him, Frog seemed to be studying his every movement

(コメント)

「興味深げに」が訳出されていない。

「タイランド」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (3) 翌朝早く、予定通り迎えのリムジンがホテルの前に停まった。

Early the next morning, a limousine pulled up to the hotel entrance as planned.

(コメント)

「迎えの」が訳出されていない。

「神の子どもたちはみな踊る」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (4) 男は席に座り、鞆の中から雑誌をとりだして、読みかけのページを開けた。何かの専門誌のように見えた。

The man took a seat and pulled a magazine from his briefcase. It looked like some sort of professional journal.

(コメント)

英語頭の語り手には「読みかけのページを開けた」はわからないので、訳出されていない。しかし、「何かの専門誌」であることはわかる。

「神の子どもたちはみな踊る」に次のような箇所がある。下はその英訳である。前半は再掲になる。

- (5) 耳に届くのは、男の革靴がたてる、こつこつという匿名的な音だけだ。善也のはいているゴム底のローファーは、それとは対照的に無音だった。

All he could hear was the anonymous slapping of the man's leather shoes against the pavement. .

Yoshiya's rubber-soled loafers were silent.

（コメント）

「対照的に」が訳出されていない。

「アイロンのある風景」に次のような箇所がある。下はその最後の文の英訳である。

- (6) 変な人、と順子は思った。でもその会話のおかげで、三宅さんに対して、より深い興味を抱くようになった。

What a weird guy, thought Junko. But now she was more interested in him than ever.

（コメント）

「その会話のおかげで」が訳出されていない。これは、順子の視点での表現で、英語頭の語り手にはこれはわからない。

「イエスタデイ」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (7) 僕は木樽に訊かれるままに、デートの詳細を話した。

I answered all his questions about the date.

（コメント）

英文を和訳すると、「僕はデートに関する彼の質問にすべて答えた」となり、「訊かれるままに」が訳出されていない。これは、原文が登場人物の「僕」の視点で書かれているのに対して、英訳は語り手の「僕」の視点で書かれているからである、

『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (8) 喫茶店には沙羅が先に来て、コーヒーを飲みながら待っていた。

Sara was in the coffee shop when he arrived. She had already ordered coffee and was waiting for him.

（コメント）

英文を和訳すると、「彼が到着したとき、沙羅はコーヒーショップにいた。彼女はすでにコーヒーを注文していて、彼を待っていた」となる。

「飲みながら」が訳出されていないが、これは、日本語の「飲みながら」から思い浮かぶ「カップを口につけている」という動作を沙羅がしていても、英語頭の語り手はそれを **drinking** と言語化できないからであろう。

『スプートニクの恋人』に次のような箇所がある。下はその英訳である。  
「彼ら」は家畜の「山羊、羊」である。

- (9) 彼らが首につけた鈴がからからという乾いた音を立てていた。

The bells around their necks made a matter-of-fact little tinkling sound.

(コメント)

「首につけた」が around their necks (首の回りの) と訳され、「つけた」が訳出されていない。

『スプートニクの恋人』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (10) まるで脱いだばかりの汚れた靴下が床に落ちているのを、遠くから眺めているみたい。

It's like looking across the room at some filthy socks tossed on the floor.

(コメント)

「脱いだばかりの汚れた靴下」が some filthy socks と訳され、「脱いだばかりの」が訳出されていない。これは、眼前の靴下が「脱いだばかり」であるとは、英語頭の語り手には書けないからと考えられる。

『国境の南、太陽の西』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (11) 彼女は嫌いな食物が給食に出てきても我慢して全部食べたし、僕はそうではなかった。

When the school lunch contained food she hated, she still ate it.

(コメント)

「我慢して」が訳出されていない。英訳の語り手にはわからない？また、「嫌いな食物が給食に出てきても」が school lunch contained food she hated と訳されている。給食には何種類かの食べ物があるからと考えられる。

### 3. 原文と英訳の視点の違いについて

語り手の文の場合、その視点が、誰のものになっているかが、原文と英訳で異なっている場合がある。

たとえば、(1)の「相手」は登場人物の視点での表現であるが、英訳は the man になっているような場合の例を挙げる。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその最後の文の英訳である。

- (1) 相手はテニス同好会の一年上の先輩だった。

The man was one year older than Tamaki, a fellow member of the college tennis club.

(コメント)

原文の「相手」は登場人物の環の視点での表現で、英語頭の語り手は the man と書く。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその最後の文の英訳である。

- (2) そこで電話のベルが鳴った。それは青豆の耳には轟音に聞こえた。トンネルを抜けていく特急列車に乗っているみたいだ。彼女はよろよろとベッドを出て、受話器をとった。壁の大きな時計は十二時半を指している。

「青豆さん？」と相手は言った。少しハスキーな女の声。あゆみだった。

A husky female voice spoke her name. It was Ayumi.

(コメント)

『「青豆さん？」』と相手は言った。少しハスキーな女の声」が A husky female voice spoke her name (ハスキーな女の声が彼女の名前を言った。あゆみだった) と訳されている。「相手」は登場人物の青豆の視点からの表現で、語り手の視点では voice になる。

『スプートニクの恋人』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (3) すみれはかまわないというしるしに、唇をまっすぐにむすんで相手の目を見た。

To show she could handle it, Sumire pursed her lips and looked into Miu's eyes.

(コメント)

「相手」が Miu (ミユウ) と訳されている。この場合の「相手」はすみれの視点での表現である。英語頭の語り手は、すみれの前にいる人物を「相手」という関係性において捉えることはできない。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその最後の文の英訳である。

- (4) 「そうなればいいと、私も思っています。しかしそれはむずかしいでしょう」

「どうして？」

青豆はそれには答えなかった。説明するのは簡単ではない。

Aomame did not answer this. She had no simple explanation.

(コメント)

「説明するのは簡単ではない」が She had no simple explanation (彼女は簡単な説明は持っていない



かった)と訳されている。これが、英語頭の語り手が書けることである。原文は青豆の視点での文である。

「かえるくん、東京を救う」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (5) 片桐は名前を呼ばれてようやく我に返った

The sound of his own name helped Katagiri snap out of it.

(コメント)

「名前を呼ばれて」が The sound of his own name を主語にして訳されている。これは、『1Q84』からの次例と同様である。

- (6) 役所や病院の待合室で名前を呼ばれると、人々は頭を上げて彼女を見た。「青豆」なんていう名前のついた人間はいったいどんな顔をしているんだろうと。

In waiting rooms at the doctor's or at public offices, people would look up at the sound of her name, curious to see what someone called "Green Peas" could look like.

(コメント)

「呼ばれる」は登場人物の視点での描写である。英語頭の語り手は、このようには書けない。

「タイランド」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (7) 彼女は首をあげてまわりを見回してみたが、暑がっているのはどうやら彼女ひとりだけのようだった。

She craned her neck to see the other business-class passengers. No, she was obviously the only one suffering from the heat.

(コメント)

「まわりを」が the other business-class passengers (他のビジネスクラスの乗客)と訳されている。「まわりを」は登場人物のさつきの視点での描写であるが、この部分は語り手の文であるので、英語頭の語り手はこう訳さざるを得ない。

「神の子どもたちはみな踊る」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (8) 善也にはわけがわからなかった。こんな何もない寂れた場所でタクシーを降りる理由がどこにあるのだろう？この男は家に帰るのではないのか？

Yoshiya wondered what the point could be of getting out of a cab in such a deserted place. Wasn't the man heading home?

(コメント)

「この男」が the man と訳されている。原文の「この」は善也の視点での書き方であるが、英語頭の英訳者は this とは書かない。

「神の子どもたちはみな踊る」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (9) コンクリートの高い塀が長く続いているところで、前のタクシーが急に停まった。善也のタクシーの運転手も、その赤いブレーキランプにあわせて、百メートルばかり後ろでブレーキを踏んだ。ヘッドライトも消した。

Where a high concrete wall stretched along the road, the taxi ahead came to a sudden stop. Alerted by the car's brake lights, Yoshiya's driver brought his cab to a halt some hundred yards behind the other vehicle and doused his headlights.

(コメント)

「ブレーキを踏んだ」は善也の視点での描写なので、英語頭の語り手は brought his cab to a halt と書かざるを得ない。

「アイロンのある風景」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (10) 町に落ちついてほどなく啓介と知り合った。

Not long after she settled in this new town, she met Keisuke.

(コメント)

「町」が this new town と訳されている。「町」だけで「この新しい町」の意味になるのは順子の視点での表現である。英語頭の小説の語り手にはこれはできない。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (11) 小松の言ったことは天吾をたじろがせた。そんなことは今まで考えもしなかったからだ。

This came as a bit of a shock. The idea had never occurred to Tengo.

(コメント)

英文後半を和訳すると、「そんな考えは天吾には起こらなかった」と訳されている。原文の「考えもしなかった」は登場人物の天吾の視点での描写であるが、英訳は語り手の視点での描写である。

次例は上例の続きであるが、同様である。

- (12) 天吾にとってふかえりはどこまでもひとつの実体だった。でもそう言われれば、たしかにその可能性も考えられる。

But put it that way, and it started to sound possible.

(コメント)

原文の「その可能性も考えられる」は登場人物の天吾の視点での描写であるが、英訳の *started to sound possible* は語り手の視点での描写である。

「UFO が釧路に降りる」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (13) 同じようなデザインと色のオーバーコートを着た二人の若い女が、空港で小村に声をかけてきた。

Two young women wearing overcoats of similar design and color approached Komura at the airport.

(コメント)

「声をかけてきた」が *approached* (近づいた) と訳されている。「声をかけてきた」は登場人物の小村の視点での表現で、英訳は語り手の人物の視点での表現である。

「UFO が釧路に降りる」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (14) 家を出るときに、預かった箱を着替えの厚手のシャツにくるみ、バッグの真ん中あたりに入れた。

Komura left home with the box in his suitcase, wrapped in a thick undershirt.

(コメント)

英文を和訳すると、「小村は厚手のシャツにくるんだ箱をスーツケースに入れて家を出た」となる。「預かった」や「着替えの」は登場人物の視点での描写なので、英語頭の語り手には言語化できない。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (15) しかしとにかく階段はそこにあった。あとは地上に降りていくだけだ。

But in any case, there it was, before her: the stairway. All that was left for her to do was climb down to the street.

(コメント)

「そこ」が *before her* と訳されている。「そこ」は登場人物の青豆の視点での描写である。英語頭の語り手の視点では *before her* になる。また、「地上」が *the street* と訳されている。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (16) それは彼が予期しない質問であったようだ。

The question seemed to have caught him by surprise.

（コメント）

英文を和訳すると、「その質問は彼を驚かせたようだった」となる。「予期しない」は登場人物の「彼」の視点であるが、英訳は「語り手の彼」の視点による文である。

「イエスタデイ」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (17) それは筋の通った話とはとても思えなかったが、木樽の恋人に会ってみること自体には興味があった。

That didn't make any sense to me, though I admit I was interested in the idea of meeting Erika.

（コメント）

「興味があった」が I admit I was interested と訳され、I admit が追加されている。「興味があった」は登場人物の視点での文なので、英語頭の小説の語り手は I admit なしで英訳するわけにはいかない？

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (18) 料理が下げられ、コーヒーポットが運ばれてきた。

After the dishes were taken away, a coffeepot arrived.

（コメント）

これは、原文が登場人物の視点での描写であるのに対して、英訳は英語頭の語り手の視点での描写になっている。

「イエスタデイ」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (19) 僕は目を逸らさないわけにはいかなかった。

It was so beautiful I had to look away.

（コメント）

「～しないわけにはいかなかった」は日本語頭の我々の英語では could not help-ing を用いたくなるが、この表現は登場人物の「僕」の視点での表現で、英語頭の語り手の「僕」の視点では had to になるのではないかな？

「イエスタデイ」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (20) その週の土曜日に栗谷えりかと渋谷で待ち合わせをして、ニューヨークを舞台にしたウディ・アレンの映画を見た。

That Saturday, Erika and I met in Shibuya and saw a Woody Allen film set in New York.

(コメント)

「栗谷えりかと渋谷で待ち合わせし」が Erika and I met in Shibuya (えりかと僕は渋谷で会った) と訳されている。

これは、「栗谷えりかと渋谷で待ち合わせし」は登場人物の「僕」の視点での記述で、英訳は、過去の出来事を小説の語り手が述べていることなので、「えりかと僕が渋谷で会った」という記述になる。

上の和英辞典の例は、これからの予定を「僕」の視点で述べたものとする。

「イエスタデイ」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (21) 夕暮れの街をしばらく散歩してから、桜丘の小さなイタリアンの店に入ってピザを注文し、キャンティ・ワインを飲んだ。

We strolled around the twilight streets for a while, then went to a small Italian place in Sakuragaoka and had pizza and Chianti.

(コメント)

「ピザを注文し、キャンティ・ワインを飲んだ」が had pizza and Chianti と訳され、「注文し」と「飲んだ」がまとめて had と訳されている。英語頭の語り手の視点からは、店に入ってしまったことは「まとめて」言語化されるのであろうか？

「イエスタデイ」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (22) 僕はそのとき電話を所有していなかったの、アルバイト先の電話番号を彼女に教えた。それから腕時計に目をやった。

I didn't have a phone back then, so I gave her the number for the coffee shop where Kitaru and I worked. I glanced at my watch.

(コメント)

「アルバイト先」が the coffee shop where Kitaru and I worked (木樽と僕が働いていた喫茶店) と訳されている。原文が「アルバイト先」とあるのは、登場人物の「僕」の視点で書かれているので、これで良いのであるが、英訳の語り手の「僕」は登場人物の「僕」ではないので、「喫茶店でアルバイトしている僕」ではない。そこで、the coffee shop where Kitaru and I worked と書かなくてはならないのであろう。

『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (23) 窓は広く、大通りに面していたが、騒音はまったく聞こえない。

The window in the office was big and faced the main street, but none of the sound from outside filtered in.

(コメント)

「騒音はまったく聞こえない」が none of the sound from outside filtered in（外の音は入り込んでこない）と訳されている。これが、英語頭の小説の語り手が書けることである。登場人物の視点で語ることはできない。

「イエスタデイ」に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (24) もちろん素敵な思い出も少しはある。晴れがましい思い出をした経験もなくはない。それは認めよう。

It wasn't that I didn't have a few good memories—I did.

(コメント)

「それは認めよう」が I did（あった）と訳されている。英語頭の語り手には、登場人物の視点に立って「それは認めよう」とは書けない。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (25) 青豆は黙って話しの続きを待ったが、続きはなかった。

Aomame waited for the dowager to continue, but she did not.

(コメント)

「続きはなかった」が she did not と訳されている。「続きはなかった」は青豆の視点での記述であるが、she did not は小説の語り手の視点での記述である。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (26) 普通の法人タクシーがこんな立派な音響機器を車に装備するはずがない。

This was not the kind of stereo you expected to see in an ordinary fleet cab.

(コメント)

英文を和訳すると、「これは普通の法人タクシーの中で見るような種類のステレオではなかった」となる。原文は登場人物の青豆の視点での表現であるが、英語頭の小説の語り手の視点ではこのようになる。

『スプートニクの恋人』に次のような箇所がある。下はその最後の文の英訳である。原文は手紙文である。

- (27) というわけで今はミュウと二人でヨーロッパを旅行しています。彼女はいくつかの仕事上の用件があって、2週間ばかりイタリアとフランスの各地を一人でまわる予定だったのですが、わたしも秘書としてそれに同行することになったのです。予告もなしにある朝突然それを告げられて、わたしもびっくりしてしまいました。

She just blurted this out one morning, took me completely by surprise.

(コメント)

「告げられて」が She just blurted this out (彼女がこれを出しぬけに言った) と She を主語とする能動態で訳されている。これは、手紙文でも、自分の行動を、語り手として述べる場合、英語頭では「わたし」の視点ではなく、あくまでも「語り手(としてのわたし)の視点」になるからである。

『スプートニクの恋人』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (28) 大きな鉢に盛られたギリシャ風のサラダと、グリルした大ぶりの白身の魚が運ばれてきた。彼女は魚に塩を降りレモンを半分搾ってかけ、オリーブオイルをたらした。

Presently the waiter brought over a heaping plate of Greek salad and a large grilled whitefish. Miu sprinkled some salt on the fish, squeezed out half a lemon, and dripped some olive oil onto her portion.

(コメント)

「運ばれてきた」が the waiter brought over (ウェイターが運んできた) と訳されている。「運ばれてきた」は登場人物の視点からの受動態であるが、英語頭の語り手は、この場面を第三者の視点から描写するので、the waiter を主語とする能動態になる。

『スプートニクの恋人』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (29) わたしは世界の端っこにいて、そこに静かに腰かけていて、誰にもわたしの姿は見えない。そんな気がしたわ。ここにいるのはわたしとすみれだけ。

There we were, sitting quietly on the edge of the world, and no one could see us. That's the way it felt—like Sumire and I were the only ones here.

(コメント)

最初の二つの「わたし」が we, us と訳されている。これは、原文では、しゃべっているミュウが自分の視点で「わたし」と話しているのであるが、最後に「ここにいるのはわたしとすみれだけ」とあるようにこの場面には二人いる。そこで、英訳では「語り手」のミュウの視点で外

から二人を描写しているので、「わたし」が we, us となるのである。

つまり、一人称小説の語り手と、自分が体験したことを語っている登場人物は、同じことをしているのである。

『スプートニクの恋人』に次のような箇所がある。下はその英訳である。語り手による地の文である。

- (30) 狭い石の階段を、丘の斜面に沿って上った。

Narrow stone stairs paralleled the slope of the hill.

(コメント)

英文を和訳すると、「狭い石の階段が丘の斜面と平行にあった」となる。原文は登場人物の「僕」の視点での記述であるが、英訳は、語り手の「僕」の視点での描写になっている。

『国境の南、太陽の西』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (31) これはなんだか僕の人生じゃないみたいだな、と。

I was living someone else's life, not my own.

(コメント)

原文は登場人物の「僕」が思ったことが言語化されているが、英訳は、語り手の「僕」の視点で状況が語られている。

『スプートニクの恋人』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (32) ミュウに指定されたレストランは、地下鉄の表参道の駅から歩いて10分くらいの距離にあった。

The restaurant Miu had made a reservation at was a ten-minute walk from the Omote Sando subway station.

(コメント)

「ミュウに指定された」が The restaurant Miu had made a reservation at（ミュウが予約したレストラン）と訳されている。原文は「すみれ」の視点での文であるが、英訳は英語頭の語り手の視点での文になっている。

『国境の南、太陽の西』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (33) 僕は娘をみつけると名前を呼び、大きく手を振った。娘も僕の姿を目にとめてその小さな手を振り、こちらにやって来ようとした。でもその前にブルーのメルセデス260 Eの助手



席に乗った女の子の姿を見つけると、何かを叫びながらそちらの方に走っていった。

When I saw her, I called out her name and waved. She waved her tiny hand and came toward me.

Then she saw a little girl sitting in a blue Mercedes 260E and ran over to her, yelling out something.

(コメント)

「でもその前にブルーのメルセデス260Eの助手席に乗った女の子の姿を見つけると」が Then she saw a little girl sitting in a blue Mercedes 260E (そして、彼女はブルーのメルセデス260Eに座っている女の子を見た) と訳されている。

「その前に」が訳出されていないが、これは「僕のところにやってくる、その前に」の意味と思われるが、これは登場人物の「僕」の視点での発言で、英語頭の語り手はこれを言語化しない。

『国境の南、太陽の西』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (34) なんだか自分ひとりが不正な近道をして、不公平な手段を使って、いい思いをしているような気がした。

I felt I was taking a dishonest shortcut, using unfair means to get to where I was.

(コメント)

「いい思いをする」が get to where I was (自分のいる場所に到達する) と訳されている。「いい思いをする～」は登場人物の「僕」の視点での文なので、英訳者はこのように訳したのであるう。

『国境の南、太陽の西』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (35) でも義父の資金と、そのやり方を抜きにしては僕ひとりでは何もできなかつたろう。そう思うと僕は居心地の悪さを感じないわけにはいかなかった。

Take away my father-in-law's capital and his "knack," and I'd never have gotten off the ground. But I wasn't entirely comfortable with this arrangement.

(コメント)

「そう思うと」が with this arrangement (このお膳立てに) と訳されている。「そう思う」は、登場人物の「僕」の視点なので、英訳の小説の語り手はこのように訳したものと考えられる。

『IQ84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (36) 彼女が顔を歪めるのは、自分ひとりのときか、あるいは気に入らない男を脅すときに限られていた。

She would contort her face only when she was alone or when she was threatening a man who

displeased her.

（コメント）

「気に入らない男」が a man who displeased her（彼女を気分悪くさせた男）と訳されている。「気に入らない」は青豆の視点での語りである。語り手の視点では、英訳のようになる。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (37) 「ヤナーチェック」と青豆は半ば無意識に口にした。言ってしまってから、そんなことは言わなければよかったと思った。

“Janacek,” Aomame said half-consciously, though after the word emerged from her lips, she wanted to take it back.

（コメント）

「言ってしまってから」が after the word emerged from her lips（その言葉が唇から出た後で）と訳されている。これは、例(6)の「名前を呼ばれると」が at the sound of her name と訳されているのと同様と考えられる。

『海辺のカフカ』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (38) 暗い林の中の小径をそろそろと進んでいくと、太い樫の木の下に小さな祠があった。

They cautiously continued down the path, and came to a smaller shrine beneath a thick oak tree.

（コメント）

「小さな祠があった」が came to a smaller shrine と訳されている。英語頭の語り手の視点ではこの状況を「彼らは祠のところにやってきた」と書くのが自然なのであろう。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (39) 「おはようございます、長耳さん」と彼はファインダーの中に見える長身の痩せた老人に向けて語りかけた。

“G’morning, there, Long Ears,” he said, looking through the viewfinder and addressing a tall, thin old man.

（コメント）

「ファインダーの中に見える」の「中に見える」が訳出されていない。これは、登場人物の牛河の視点での表現であるからと考えられる。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (40) 目を閉じるとふかえりの視線が残していった疼きを、肋骨の内側に感じた。疼きは海岸に次々に寄せる穏やかな波のように、やってきては去っていった。またやってきては去っていった。

When he shut his eyes, the ache of her gaze stabbed at his ribs, the ache rolling in and out like gentle waves at the shore, rolling in again, then receding.

(コメント)

「ふかえりの視線が残していった疼きを、肋骨の内側に感じた」が the ache of her gaze stabbed at his ribs (彼女の視線の痛みが彼の肋骨を刺した) と訳され、「感じた」が訳出されていない。これは、「感じた」は登場人物の牛河の視点での描写であるからである。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (41) しばらく進んだところで、牛河は少女の姿を再び目にした。

After a while he spotted her.

(コメント)

「しばらく進んだところで」が After a while と訳されている。また、「再び目にした」は登場人物の視点での記述なので、英語頭の語り手には書けない。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (42) 牛河は彼らの行き来をただ目で追っていた。カメラのシャッターを押すこともなかった。これ以上彼らの写真を撮る必要はない。今では牛河の関心は三人の人物に絞られていた。

Ushikawa watched them come and go but didn't snap any photos. There wasn't any need. Ushikawa was focused on only three people.

(コメント)

「これ以上彼らの写真を撮る必要はない」が There wasn't any need と訳され、「これ以上」が訳出されていない。英語頭の語り手には「これ以上」とは書けない。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (43) やがて牛河は息を呑んだ。そのまましばらく呼吸することさえ忘れてしまった。

Ushikawa gulped. For a while, he forgot to breathe.

(コメント)

「そのまま」が訳出されていない。英語頭の語り手が書けることではないのであろう。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (44) それから青豆は浴室に行って着ている服を脱ぎ、シャワーを浴びた。熱い湯を浴びて、身体に残っていた嫌な汗を流した。

Aomame went into the bathroom, stripped, and showered. The hot water took off the remaining unpleasant sweat still clinging to her body.

（コメント）

「熱い湯を浴びて、身体に残っていた嫌な汗を流した」が The hot water took off the remaining unpleasant sweat still clinging to her body（熱い湯がまだ身体についていた残りの汗を取った）と訳されている。原文は青豆の視点で書かれているが、これが英語頭の訳者が書けることである。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (45) 牛河は手を伸ばしてその袋をむしり取ろうとしたが、手はもちろん動かなかった。

He tried to reach out to rip away the bag, but his hands wouldn't move.

（コメント）

「もちろん」が訳出されていない。原文の「もちろん」は語り手の判断と考えられるが、英語頭の語り手は、このような判断はしない？

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (46) 本当は会ったりするべきじゃないのかもしれない。天吾は天井にそう問いかける。

Maybe we shouldn't meet again. Tengo stared up at the ceiling.

（コメント）

「天吾は天井にそう問いかける」が Tengo stared up at the ceiling（天吾は天井を見上げた）と訳されている。英語頭の語り手は、舞台上の演技を側から見て描写しているので、「問いかけ」ているのかどうかはわからない。英訳は、「見たまま」である。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (47) 六人は誰が合図するともなく、床の上に静かに腰を下ろし、輪になった。

Without any obvious signal, the six of them quietly sat down on the floor in a circle.

（コメント）

「誰が合図するともなく」が Without any obvious signal（明らかなシグナルもないのに）と訳されている。英語頭の訳者は、「目に見えるきっかけ」がない、と書くのである。

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその最後の文の英訳である。

- (48) 天吾はもと来た道を辿っていた。おそらくこのままアパートの自室に戻るつもりなのだろう。

Tengo walked down the same street, most likely headed back to his apartment.

(コメント)

「もと来た道」が the same street と訳されている。これ文は天吾の視点での表現である。また、「このまま」が訳出されていない。

**引用文献** 末尾の『』内は本稿で用いた略称である。

- 村上春樹『風の歌を聴け』（講談社）1979  
『1973年のピンボール』（講談社）1980  
『ノルウェイの森』（講談社）1987『ノルウェイ』  
『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮社）1985  
『国境の南、太陽の西』（講談社）1995『国境の南』  
『ねじまき鳥クロニクル』（新潮社）1994～95『ねじまき鳥』  
『スプートニクの恋人』（講談社）1999『スプートニク』  
『海辺のカフカ』（新潮社）2002  
『アフターダーク』（講談社）2004  
『ふしぎな図書館』（講談社）2005  
『1Q84』（新潮社）2009  
『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（文藝春秋）2013『色彩』  
『女のいない男たち』（文藝春秋）2014

- Haruki Murakami: Wind-up Bird Chronicle (Harvill) 1997  
: South of the Border, West of the Sun (Harvill) 1999  
: Norwegian Wood (Vintage) 2000  
: Sputnik Sweetheart (Harvill) 2001  
: Kafka on the Shore (Knopf) 2005  
: After Dark (Harvill) 2008  
: 1Q84 (Vintage) 2011  
: Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage (Knopf) 2014  
: Strange Library (Harvill) 2014  
: Yesterday (The New Yorker) 2014  
: Wind/Pinball (Knopf) 2015

## 参考文献

- 塩濱久雄、なぜこう訳されているのか（1）『神戸山手大学紀要14号』（pp139-149）2012  
塩濱久雄、なぜこう訳されているのか（2）『神戸山手大学紀要15号』（pp107-145）2013  
塩濱久雄、なぜこう訳されているのか（3）『神戸山手大学紀要15号』（pp99-137）2014  
塩濱久雄、「日本語頭」でわかること、「英語頭」でわかること ―村上春樹を英語で読む（2－4）―『神戸山手大学紀要16号』（pp107-144）2015